

文字の海、魚が吐く

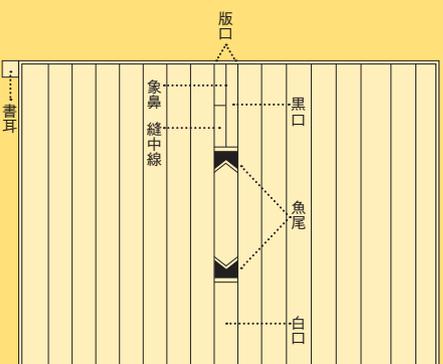
原稿用紙の謎 ①

●ワープロの普及で、いま、文字を手で書き記す人びとの机上から

姿を消し去ろうとしている「原稿用紙」。

表面に縦横に走る罫線群をひきしめるかのように、この用紙の紙面の中央にどつかりと座る、風変わりな一つの意匠がある。「魚尾」である。この用紙の意匠を創案した中国で、「魚尾」と名づけられた。

私はこの形を、「魚口」と呼びかえたい。以下、その理由を記すことにする。



魚尾

- ① 中国の割付用紙の中央部の版口に並ぶ飾りものの名称を記す。向い、魚尾の上方には、象鼻という名称も見いだせる。
- ② 包背装の冊子の小口を特徴つける、象鼻と魚尾の意匠。
- ③ 岐阜の大垣城の棟上を飾る鯨鯨の雄姿。大きな口をもつ。

●四百字詰め原稿用紙には、二百字詰めの大きな枱が二つ、並び

あう。二つを結ぶ「版心」の部分に、三角形を二つ、ぶつけあわせた

とみえる奇妙な塊が、上下に向かいあつて並んでいる。これがこの

話の主役である「魚尾」であり、「魚口」である。

「魚尾」「魚口」とは、その名のごとく、魚の尾、魚の口。三角の塊が

つくる形は、魚の尾が開き、あるいは、魚の口が開くさまを模す。

それが二つ、原稿用紙の中央で上下に向かいあう。一对の魚が文字

③の海に潜み、なにごとかを果たそうと身がまえている。

●「魚尾」「魚口」の縁者が、思わぬところに姿をあらわす。たとえば

日本の城の天守閣。大屋根の棟上の両端を飾る、鯨鯨の姿である。

なぜ魚が、天に聳える屋根の上へと昇らねばならぬのか。

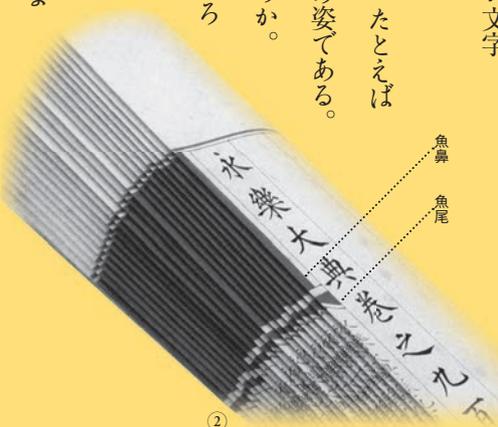
なぜ魚が、原稿用紙の枱目に潜まねばならぬのだから。

う。疑問の渦が一挙に噴出することだろう。

鯨鯨



●棟梁の両端を飾る鯨鯨(鯨瓦)は、もと、鵜尾と呼ばれる屋根飾りを起源とする。鵜尾とは、「鳥」の「尾」のこと。鳥の頭、ま



②